

【小学校第6学年の実践】

1 主題名

強い意志をもって【A 希望と勇気、努力と強い意志】

2 教材

日本で初めての女性医師 荻野 吟子（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

希望と勇気、努力と強い意志とは、自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることである。児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。

自分に適した目標を設定し、見通しをもってよりよい自己を実現しようとする向上心と結び付いてこそ、前向きな自己の生き方が自覚できるようになる。そのためにも、児童がより高い目標を立てたり、その実現を目指して自分としての夢や希望を掲げたりすることができるよう、自分の目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力することについて考えさせる指導が大切である。

第6学年の指導に当たっては、目標の実現に向けて自分自身を向上させるために大切なことについて多面的・多角的に考えさせることを通して、目標の実現を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

目標の実現を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする心情を育てるために、道徳科以外では、以下のような指導を行っている。

①国語科「引用して話そう」

目標の実現を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする心情を育てるために、自分の抱負や決意、将来の夢などについて言葉や写真を引用して話す指導を行っている。先人や著名人の生き方に共感し、自分も目標に向かって努力したいと発表する児童が多かった。また、聞いている児童も友達の発表から、いろいろな著名人の生き方に触れることができた。

第6学年になつての抱負や決意、将来の夢などを発表したときには、児童も頑張ろうと意欲をもってしたが、時間が経つにつれその意欲は薄れてきている。定期的に振り返る場面を設定したり、教師から頑張っていることへの励ましの声掛けを行ったり、達成できた児童を紹介したりするなど、継続して努力できるよう指導する必要がある。

②社会科「歴史上の人物から学ぼう」

目標の実現を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする心情を育てるために、歴史上の人物から学んだことを意見文にまとめる指導を行っている。意見文にまとめる前に、学習を振り返りながらどんなことを学んだかグループで話し合いをさせた。その中で、人々の知恵や努力の素晴らしさを再確認でき、意見文づくりに生かすことができた。

これからも、歴史上の人物の考え方や人物が行ったことを話し合う活動や文にまとめる活動を通して、先人の夢や希望をもって行動している生き方に触れさせ、自分の夢や希望をもてるよう指導する必要がある。

③特別活動「前期の目標づくり」

目標の実現を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする心情を育てるために、学級目標を話し合った後に、最高学年としての役割を意識した個人の目標（前期）を立てさせる指導を行っている。常に目標を意識して行動するために、教室の後ろに掲示した。

前期は最高学年としての意識が不十分な点もあり、自分に合った目標を十分に考えられたとは言えないので、じっくりと自分の目標を見つめさせるよう指導する必要がある。

(3) 教材について【教材観】

目標の実現を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志について多面的、多角的に考えさせるために、目標実現のために頑張り続けた時の吟子の気持ちを中心に話し合い、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

「女が医師になんかなれるわけがないんだ。」と笑われた時の吟子の気持ちを考えようという発問では、「絶対に医師になってやる。」という実現に向けての強い気持ちや、「無理かもしれない。」という、くじけそうになる気持ちを想像することが想定される。夢や希望の実現に向けて努力する気持ちをもつことが、ときには難しいこともあるといった人間理解や他者理解を深めさせる。

吟子はなぜ頑張り続けることができたのでしょうかという発問では、「病気で辛い思いをしたから。」や「苦しむ女性を助けたいと思った。」など、強い意志をもっていたことについて発言することが想定される。目標の実現を目指して強い意志をもつことが大切であるといった価値理解を深めさせる。

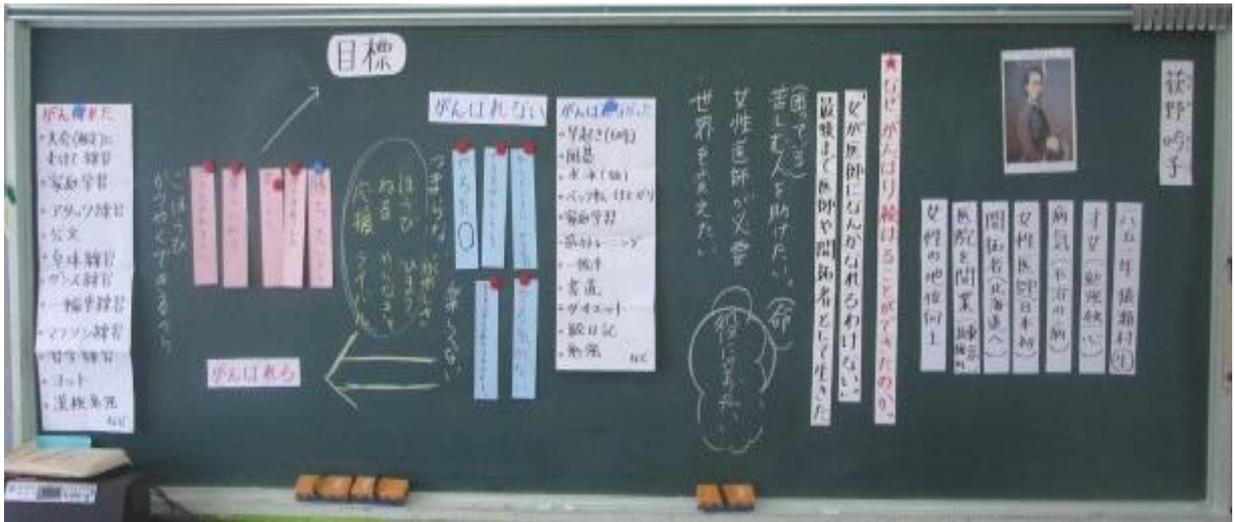
4 ねらい

荻野吟子の生き方に触れることを通して、逆境に負けず自分の志を貫き、人生を切り開くことの大切さに気付き、目標を達成するという強い意志をもち、希望と勇気をもって努力しようとする心情を育てる。

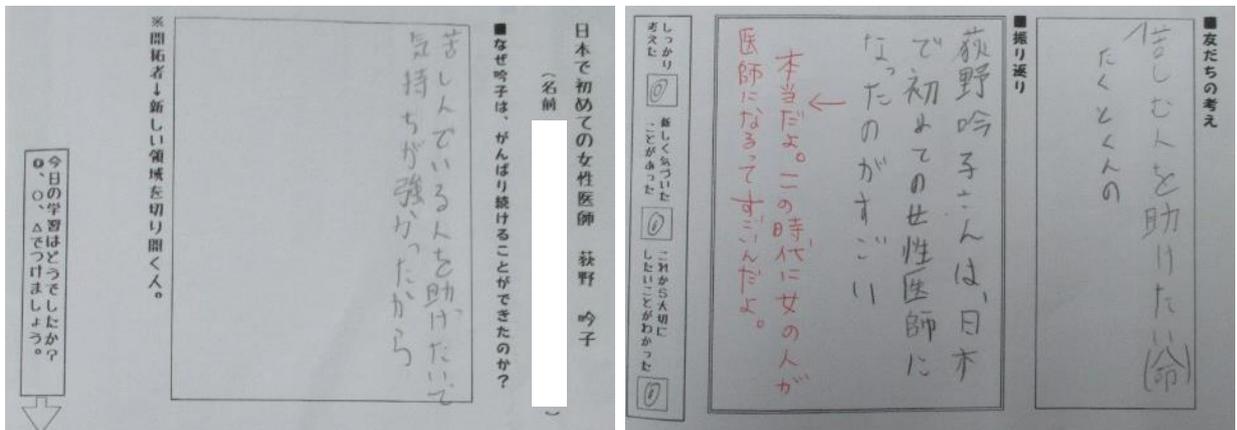
5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導入	● 自分の経験を振り返る。 ○ 目標を決めて、頑張れたことや頑張れなかったことはありますか？ ・漢字テストに向けて練習した。 ・陸上大会に向けて、朝走った。 ・家庭学習を最近やっていない。	・自分の生活を振り返る活動を行うことにより、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。	【工夫①】 ・希望と勇気、努力と強い意志に関わる児童自身の経験を振り返ることができる活動を行う。
展開	● 資料「日本で初めての女性医師」を読み、話し合う。 ○ 吟子は、「女が医師なんかになれるわけがないんだ。」と笑われた時、どのような気持ちだったでしょう。 ・くやしい。 ・絶対に医師になってやる。 ・無理かもしれないと思った。 ◎ 吟子はなぜ頑張りが続けたのでしょうか。 ・病気で辛い思いをしたから。 ・苦しむ女性を助けたいと思った。 ・世の中を男女平等にしたいから。 ・女性も社会で活躍してほしいから。	・児童とやりとりしながら、吟子の生き方をまとめる。 ・吟子が周りから「女が医師なんかになれるわけがない。」と笑われてもくじけずに医師になり、最後まで医師や開拓者として生きることができた理由を話し合わせる。	【工夫②】 ・登場人物の生き方を通して、努力と強い意志について、多面的・多角的に価値理解を深められるように、児童の発言を予め想定し、道徳的価値を踏まえて黒板に整理して示す。
	● 自己を見つめる。 ○ あきらめず努力して、やりとげたことで、よかったと思えたのはどんな時ですか。 ・習い事の大会でよい成績を残すことができ、目標を変えずに頑張っていたよかったと思った。 ・運動会のリレーの練習を続けて、一位になった時に、仲間感謝することができた。 ・得意の漢字を家庭学習で毎日練習して、テストで満点を取った時、もっと得意なことを伸ばしていこうと思った。	・強い意志をもって、努力し、達成感や充実感を得た経験を振り返らせる。 ■ 目標を達成するという強い意志をもち、希望と勇気をもって努力することの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫③】 ・自分の考えや思いを書く活動を十分に確保し、自己理解を深めさせる。 【工夫④】 ・希望と勇気、努力と強い意志に関わる自分自身の経験を振り返り、自己理解を深められるよう、個人で考えた後に全体で交流し認め合うとともに、頑張れないときの気持ちにも注目させ、話し合わせる。
終末	● 振り返りを書く。 ※今日の勉強で考えたこと、気付いたことを書かせる。		

6 板書



7 ノート・ワークシート



【授業実践を振り返って】

ねらいとする道徳的価値に対する考えを広げ深めるために、多様な考え方に触れることが必要です。展開前段では、吟子が頑張り続けることができた理由を話し合わせましたが、児童は、以下のように自我関与を基に考えるのではないかと予想しました。

- ・自分の辛い経験から
- ・自分の苦勞した経験から
- ・苦しんでいる人を助けたいという思いから
- ・女性の地位向上のために

さらに展開後段では、目標に向かって頑張ることができるときとできないときがあるのはなぜなのかを話し合わせる中で、ねらいとする道徳的価値について考え方や感じ方を深めるため、「生きる喜び」「公正・公平」等の道徳的価値と関連を図りながら、自分との関わりで多面的・多角的に考え、『努力と強い意志』について考えを深めさせました。

また、他者理解・価値理解を深めるために、話し合いや問返しの方法を工夫し、ねらいに向けて児童が考えを深められるようにしました。